これでいいのか山小屋の応対

4月の中旬、仲間4名（男性3・女性1）と北ア・朝日岳で山スキーを楽しんだ。今回は春山合宿訓練を兼ね、蓮華温泉でテン泊の計画だった。

天狗ケ原から振子沢を滑り蓮華温泉に到着。さっそく小屋におもむき、テン泊の手続きをする。小屋には中年男性の受付がいた。

私　「すみません。テン泊の手続きをお願いします」
受付　「そこにある用紙に必要事項を記入して下さい」
私　「料金はいくらですか」
受付　「無料です」
私　（オー、太っ腹。嬉しいね）
私　「水は”ある”と聞きましたが、何処ですか」
受付　「テン泊には水はありません」
私　（エーッ！。確かに水はあるという話だったが、どうなってるんだ）
私　「来る前、電話で”ある”と確認したんですが」
受付　「ありません」
私　「・・・・・・・」
（なければ仕方がない。雪を溶かすか）
（気を取り直して）
私　「外のトイレが雪に埋まって使用出来ないようですが、小屋のを貸していただけますか」
受付　「駄目です」
私　「では、どうすれば、いいのですか？」
受付　「その辺の、沢の下の方でやってください」
私　「エーッ！」
（絶句。そんな馬鹿な）
私　「女性がいるので、有料でも結構です。小屋のを貸して下さい」
受付　「駄目です。貸せません」
（と、横を向いてしまう）
私　「・・・・・・。・・・・・」
（カバチタレ！。勝手にしやがれ）

これが当日の蓮華温泉受付と私の主な会話である。断っておくが、この時私が高圧的かつ挑発的な態度でけっして臨んだ訳ではない。ごく普通に、あくまで紳士的に「お願い」する姿勢だった。